

# 子ども食堂の類型と特徴

類 型	地域共生型	セーフティネット型
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居場所づくり</li> <li>・ 9つの「コ食」を防ぐ</li> <li>・ 食育</li> <li>・ 多世代交流</li> <li>・ 忙しい親の支援(たまには食事づくりから解放)</li> <li>・ 子育てに関わる地域づくり</li> <li>・ できれば生活困窮の子どもの支えになりたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食料の支援</li> <li>・ 生活困窮の課題対応(福祉専門機関の支援につなげることも)</li> <li>・ 同じ悩みを持った子ども同士が、悩みを打ち明けられる居場所づくり</li> <li>・ 一人一人の課題に向き合った支援(ケースワーク)</li> </ul>
対 象	主に子どもだが、世帯所得、年齢を問わず、地域の誰でも受け入れる	生活困窮世帯の子どもがほとんど(当事者性が強い)
定 員	100名を受け入れることも	一人一人に寄り添うため、多くて20名
地域に対する開かれ方	オープン	活動場所の住所は非公開
参加費	徴収する	徴収しない。徴収してもわずか
公的機関との連携	ゆるやか	密接に連携
雰囲気	明るく、楽しい	一見楽しいが、一人一人の課題は複雑、深刻
取り組みやすさ	活動を始めやすい	子どもの課題に本気で向き合う覚悟が必要
団体数	多い(約9割)	少ない(約1割)
開催頻度	少ない(月1回程度が多数)	多い(週に複数回)
専門性	あまり問われない	特に福祉的専門性が問われる
主 体	任意団体が多い	NPO法人が多い
スタッフ	ボランティアがほとんど	有給職員もいる
年間経費	20万円もあればできる	100万円を超えることも
似た活動	プレーパーク	生活困窮世帯対象の無料塾
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本当はニーズの高い子どもを支援したいが、実際に来ているかどうかわからない(対象世帯の個人情報を持つ行政、学校や社会福祉協議会と緊密に連携できるかが問われる)</li> <li>・ 来やすさを重視するため、「子ども食堂＝貧困対策」のイメージは困る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域からの貧困の「レッテル貼り」(スティグマ)を避けながら、子どもが来やすい居場所とすること</li> <li>・ 財源、人材、食材などの経営資源の安定的確保</li> </ul>